

東 京 都 公 害 審 査 会  
令 和 4 年 度 第 1 回 総 会

次 第

一 開 会

二 総務部長挨拶

三 委員紹介

四 会長選出

五 会長代理の指名

六 議題

1 公害紛争処理の報告

～落合委員による騒音に関する講義～

2 係属中事件の報告

3 終結事件の報告

七 意見交換等

八 閉 会

※会議の公開は、六 議題 1 の「公害紛争処理の報告」までとなります。

# 1 公害紛争処理の報告

(1) 全期間 (昭和46(1971)年4月1日～令和4(2022)年3月31日)

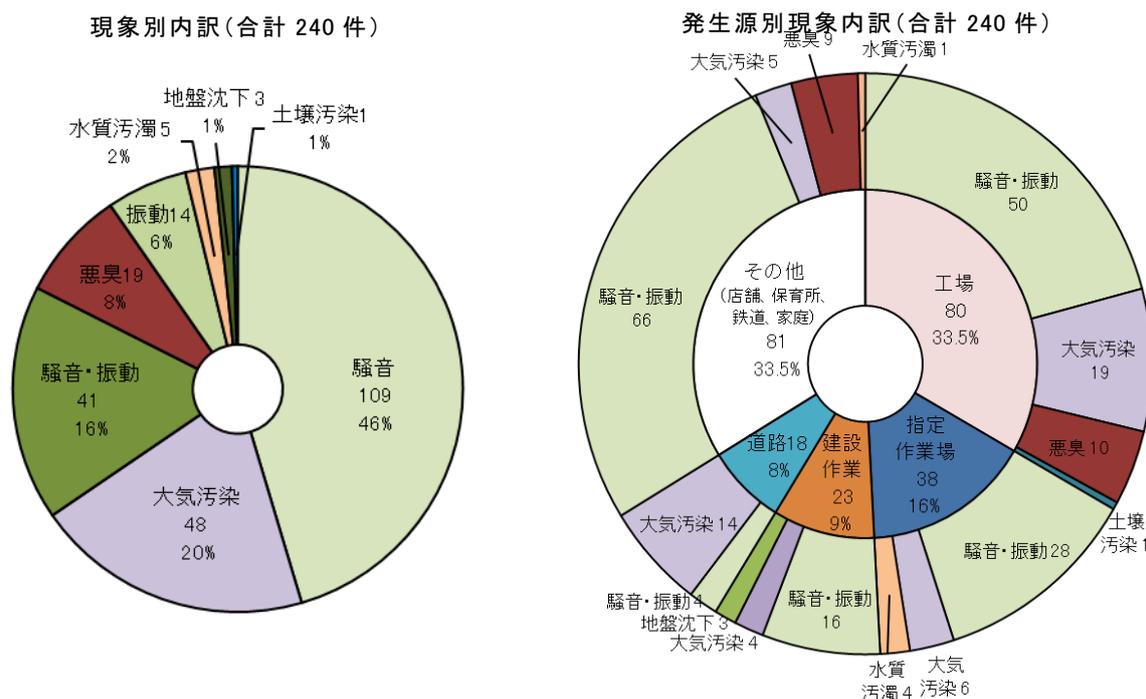
## ① 手続別処理状況

区 分	取扱件数								係属中	公調委 へ送付
	申請	職権	終 結	成 立	打 切	取 下	公調委 へ引継			
あっせん	7	6	1	7	4	3	0	0	0	0
調 停	233	232	1	225	121	85 (1)	18	1	5 (-1)	3
計	240	238	2	232	125	88	18	1	5	3

※( )内数は前回総会後の動き

区 分	申 出	終 結	
		勧告実施	勧告せず
義務履行勧告申出事件	5	5	3

## ② 取扱事件の公害現象別・発生源別内訳



※主な争点となった現象により分類

(2) 過去10年間 (平成24(2011)年4月1日～令和4(2022)年3月31日)

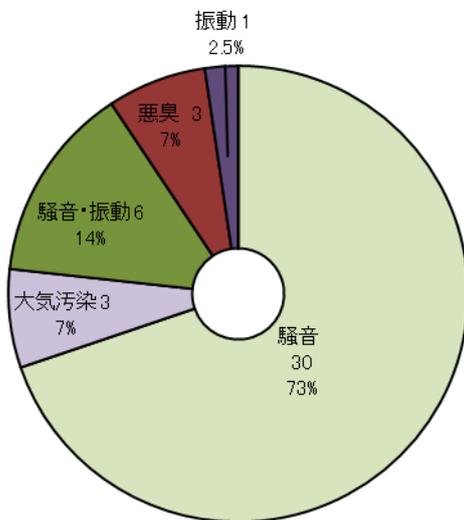
① 処理状況

区 分	取扱件数									
	申請職権		公調委へ引継					係属中	公調委へ送付	
	申請	職権	終結	成立	打切	取下				
調 停	40	40	0	35	11	20 (1)	4	0	5 (-1)	0

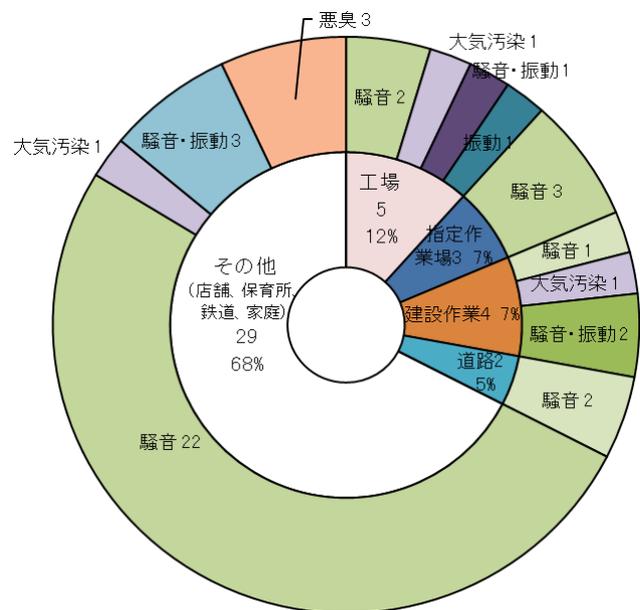
※( )内数は前回総会後の動き

② 現象別・発生源別内訳

現象別内訳(合計40件)



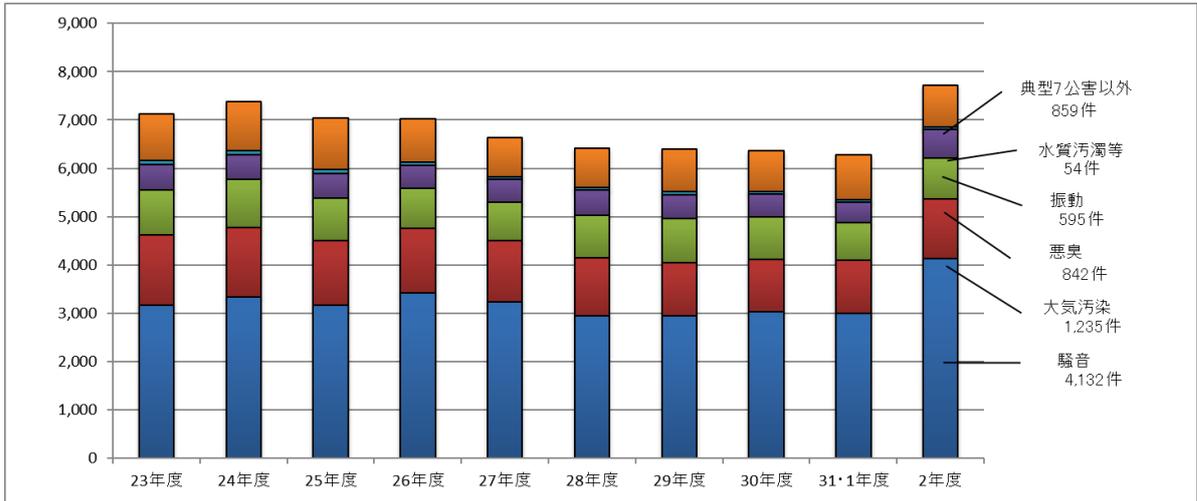
発生源別現象内訳(合計40件)



(3) 公害苦情調査から <平成 31・令和元年度公害苦情調査 公害等調整委員会事務局調べ>

① 公害苦情件数の推移 (東京都内)

令和 2 年度件数 7,720 件  
(典型 7 公害 6,861 件)



② 公害苦情処理状況 (東京都内 典型 7 公害)

処理対象件数 8,083 件 (新規受付 6,861 件 前年度繰越 1,222 件)

直接処理 6,379 件	発生源側に対する行政指導	4,604 件
	当事者間の話し合いが中心	101 件
	申立人に対する説得が中心	247 件
	原因の調査が中心	1,036 件
	その他	391 件
他 (警察、国等の機関へ) へ移送		82 件
翌年度へ繰越		1,379 件
その他		243 件

# 騒音について

- 人の聞き取れる音の大きさ
- 音の周波数的な分類と感覚
- 騒音とは?
- 騒音の影響と苦情
- 苦情への対応（確認・測定・評価）
- 騒音の測定器
- 騒音の低減対策方法
- 騒音苦情事例の紹介

# 音とは?

- 音は微小な空気の変動
- その変動が耳の中の鼓膜を振動させることにより、人は音として感じる
- 大気圧は、1気圧=1013 hPa (ヘクトパスカル)
- 1013 hPa=101300 Pa=1.013 × 10<sup>5</sup> Pa (パスカル)
- どの程度「微小」なのか?
- 人が聞こえる最小の大きさ  
0 dB (デシベル) = 2 × 10<sup>-5</sup> Pa = 0.00002 Pa
- ガード下の騒音程度の大きさ (94 dB) でも  
たったの 1 Pa

ガード下の騒音の大きさ  
程度でも大気圧の1/10万



# 人の聞き取れる音の大きさ

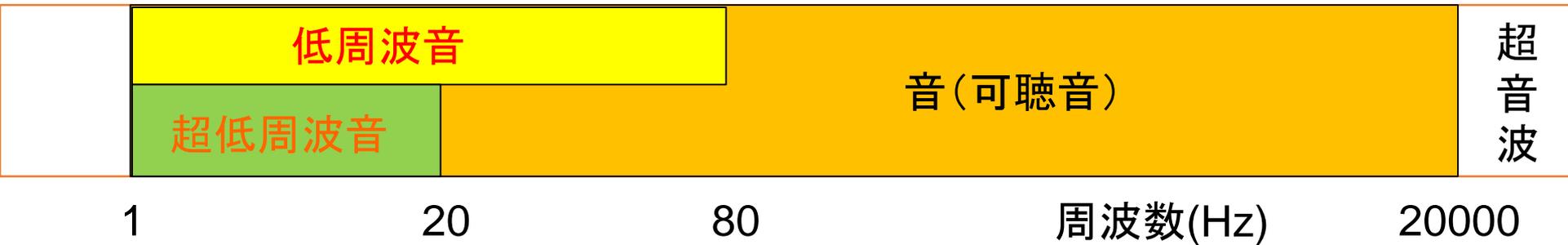
- 0.00002 Pa ~ 20 Pa (パスカル) 程度と言われている
- 音を聞き取れる範囲が広すぎて取扱いに不便
- **人の感覚は対数に対応している**と言われる

→対数により、全体を圧縮して表示

→得られた音圧と基準の音圧との比の2乗をとって対数化し、  
10倍した値；「音圧レベル」を用いる **単位：デシベル (dB)**

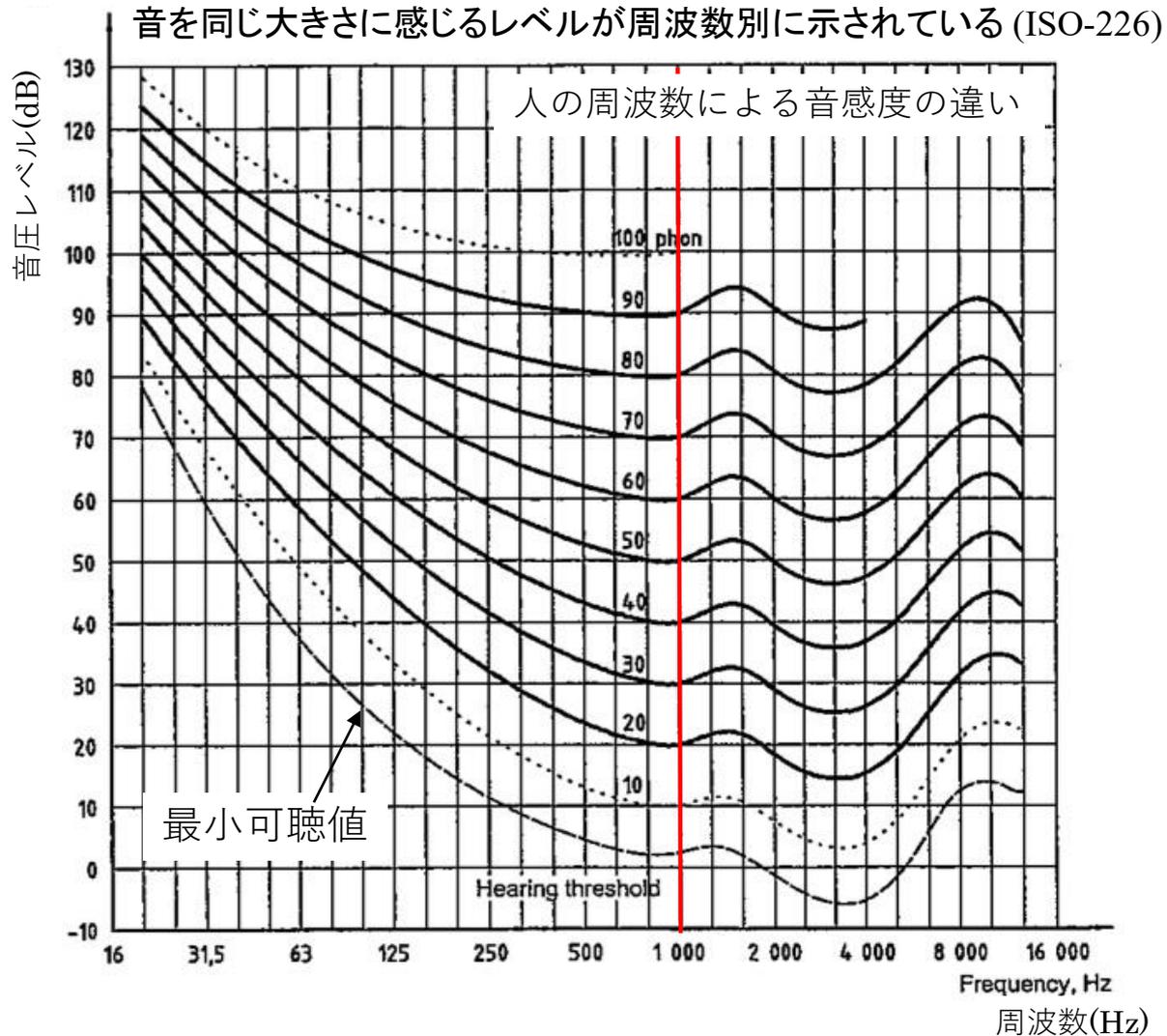
音圧(Pa)	音圧レベル(dB)	音圧(Pa)	音圧レベル(dB)	音圧(Pa)	音圧レベル(dB)
0.00002	0	0.02	60	20	120
0.0002	20	0.2	80		
0.002	40	2	100	大気圧 = 101300 Pa	

# 音の周波数的な分類



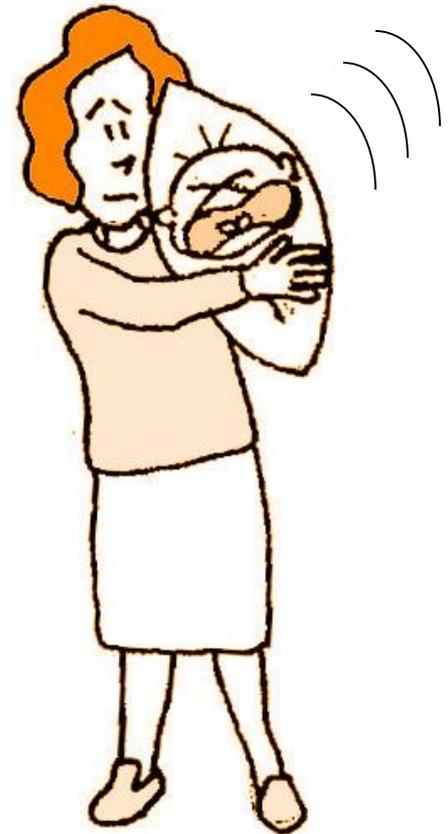
- 人は広い範囲の周波数の音が聞き取れる。
- 普通の音圧で人が聞き取れるとされる音の周波数  
： 20～ 20000 Hz
- 1～ 20 Hzの音：超低周波音
- 1～ 80 Hzの音：低周波音\*  
(\* 低周波音の周波数範囲は国によって異なる)
- 20000 Hz以上の音：超音波

# 音の大きさの等高線（等ラウドネス曲線）



# 騒音とは？

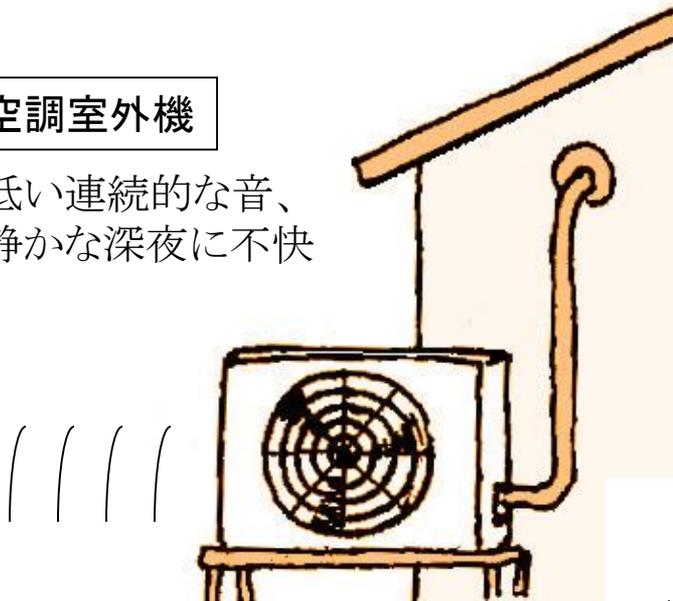
- 騒がしい音、やかましい音、ないほうがよい音
- 音を騒音として感じるかどうかは、音の性質（大きさ、音色、発生の仕方）に加えて、音にさらされている人の活動状況、生活環境、性格、音源側との利害関係等も大きく関与する



# さまざまな騒音の例

空調室外機

低い連続的な音、  
静かな深夜に不快



衝撃性の音

布団叩き



オートバイ

大きい一過性の音



用のない人には邪魔な音

物売り



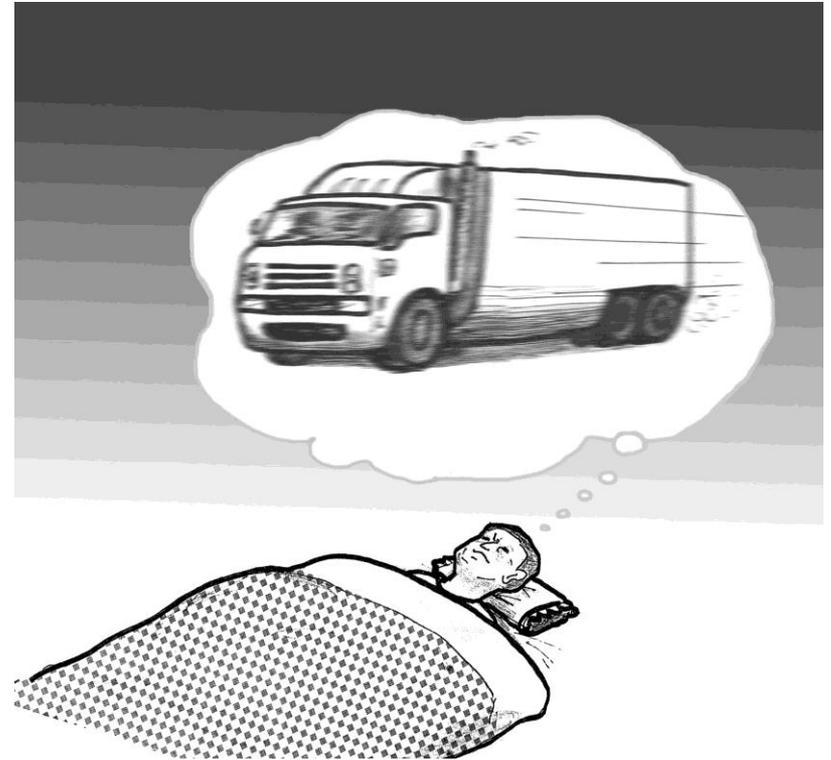
# スーザン・ボイル、近隣住民から苦情

スーザン・ボイルが、地元スコットランドの近隣住民から歌声がうるさいと訴えられた。

- スーザンは、スコットランド南東部ウェスト・ロジアンのブラックバーンの自宅で自身のヒット曲を熱唱していたところ、近所に住むテレサさんとポールさんの2人が、スーザンの大きな歌声に激怒し、地元役場に騒音被害の文句を訴えに行ったようだ。
- テレサさんは「あまりにうるさくてテレビの音も聞こえないくらいなんです。耐えられなかったですね。朝一や夜遅くまでだったので、本当に不愉快でした」
- 「スーザンは1曲を繰り返し歌って、それを何時間も続けるんです。とにかくすごい騒音なんです。もしかしたら今後スーザンは新曲を練習したりするのかもしれませんが、あまりにも信じがたいものだったんです」と語っている。

# 騒音の影響と苦情

- 生理的影響
  - ①聴力障害, ②睡眠影響
- 心理的影響
  - 感覚的被害(Annoyance)
- 活動妨害
  - ①作業妨害, ②聴取妨害
- 社会的影響
  - 不動産価値の下落等

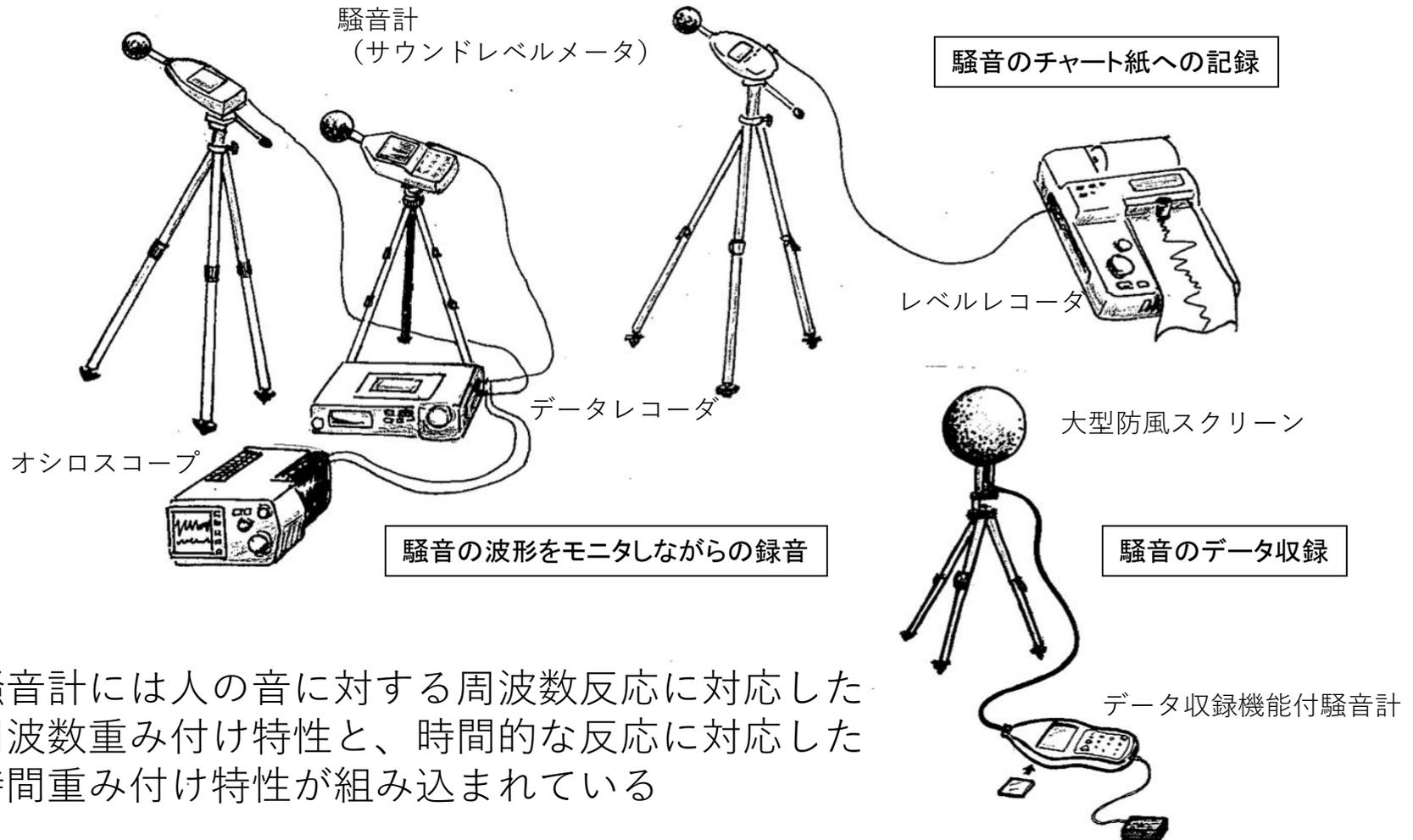


以前は大きな音の苦情が多かったが、騒音対策が進み、住宅の遮音性能が向上したことにより、近年では小さいけれど不快な音の苦情が多い

# 苦情への対応（確認・測定・評価）

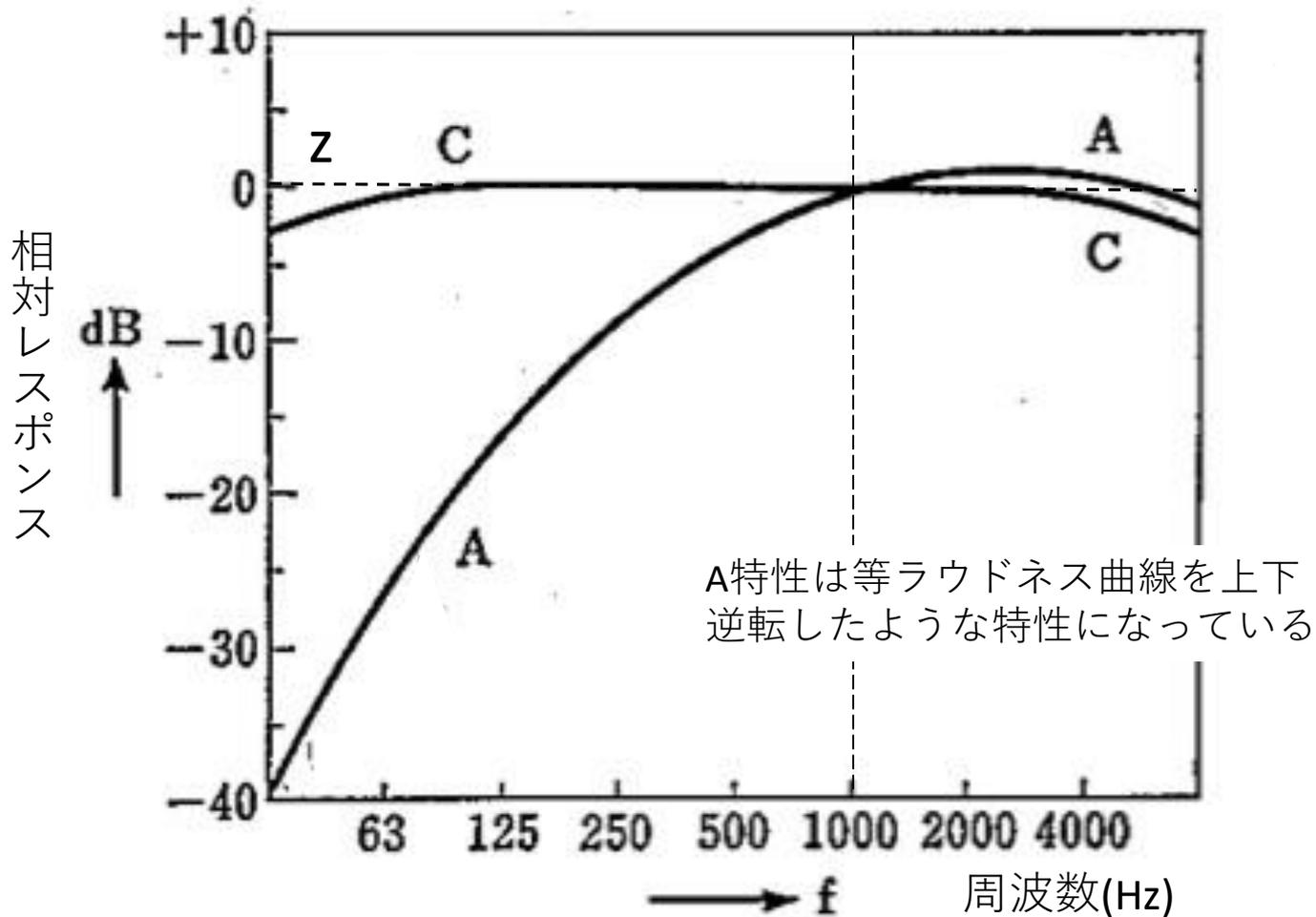
- **申し立て内容の把握**  
申し立て内容をよく聞き取る  
（症状、発生時期・時間帯、音の種類・特徴等）
- **現場の確認（現場踏査）**  
申し立てる音が聞こえるか、感じるかを確認する  
申し立て者側と発生源側の位置関係  
周囲に音の発生源がないか
- **発生源側への聞き取り**  
申し立ての原因となる発生源があるか
- **測定計画の立案（測定が必要な場合）**
- **現場測定**
- **測定結果の評価、対策の必要性**

# 騒音の測定器



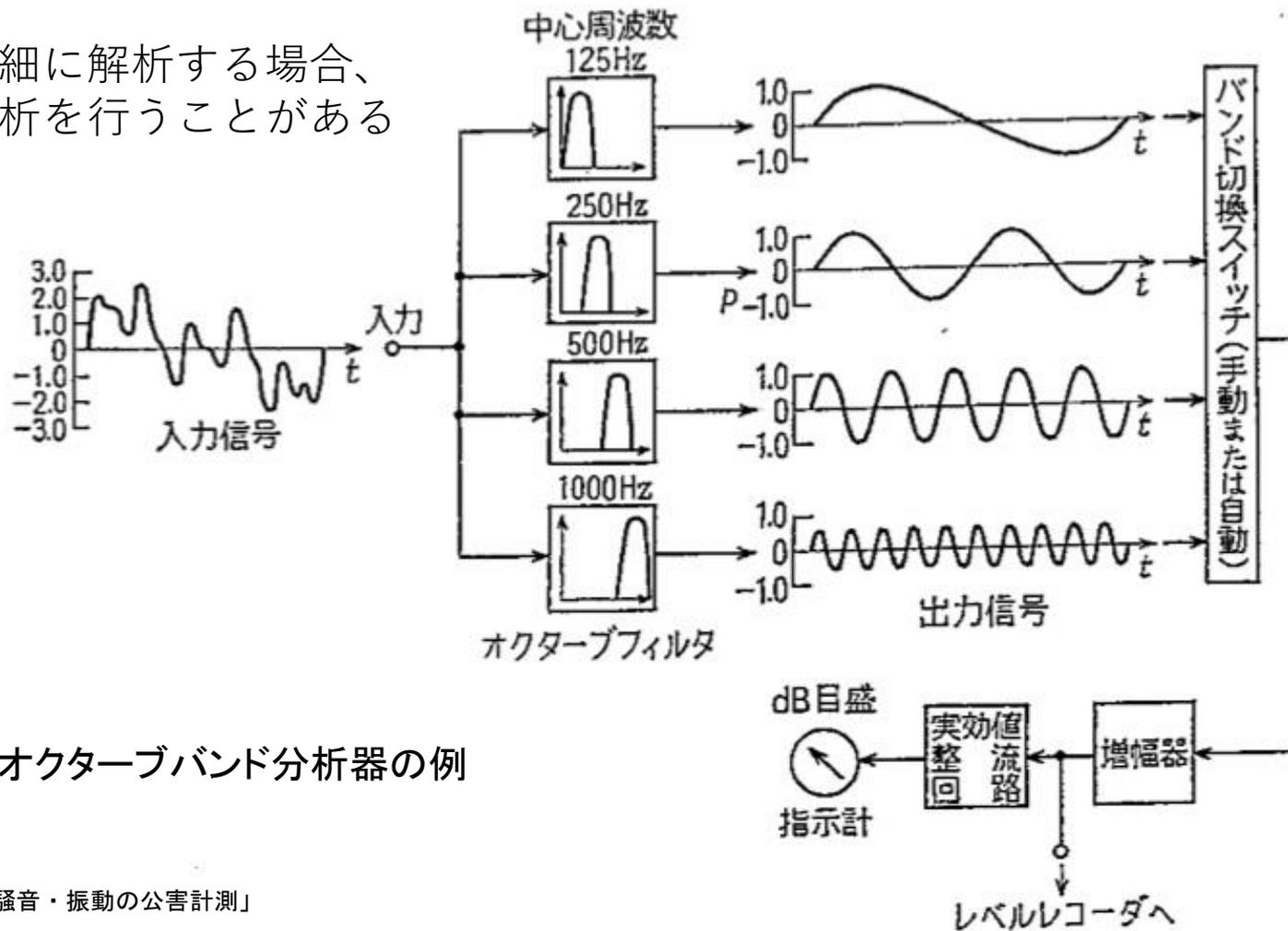
騒音計には人の音に対する周波数反応に対応した周波数重み付け特性と、時間的な反応に対応した時間重み付け特性が組み込まれている

# 周波数重み特性 A特性, C特性



# 周波数分析器の動作原理

騒音を詳細に解析する場合、  
周波数分析を行うことがある



オクターブバンド分析器の例

# 騒音の低減対策方法

- ①発生源対策 発生原因の究明・除去、不具合の是正、機器の移設等
- ②伝搬経路対策 防音壁の設置等
- ③受音点対策 窓や外周壁の遮音性能向上等

⇒ 騒音の対策は発生源対策が基本

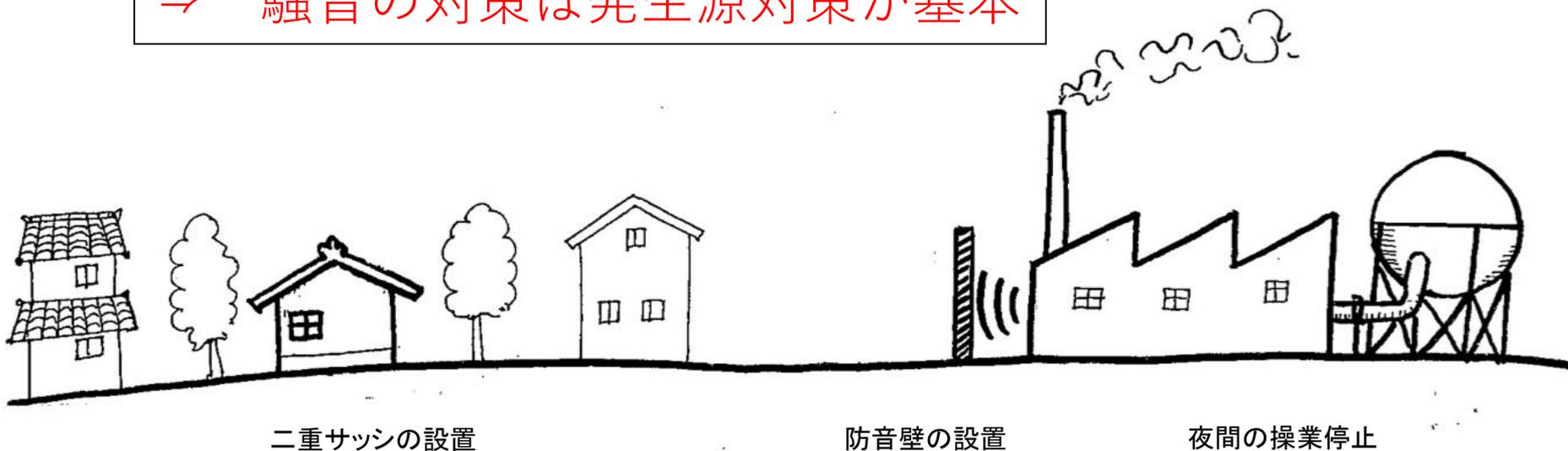


図 騒音低減対策の例

# 騒音苦情事例の紹介 (1)

## ■家庭用ヒートポンプ給湯器からの騒音による苦情事例

- 隣家に設置された家庭用ヒートポンプ給湯機の音に関する苦情が寄せられた。特に早朝3時頃が最も強く感じるとのこと。
- 発生源近傍と、苦情者が騒音を大きく感じるという居間において、深夜から早朝5時頃まで測定を行ったところ、発生源の稼動状況と苦情者の感覚には対応関係（関連性）があり、室内における測定結果は一部の周波数において苦情が低周波音によるものか否かの目安値を上回った。
- 苦情者とともに家庭用ヒートポンプ設置している隣家を訪問し、測定結果について説明を行ったうえで、製造業者の協力を依頼した。
- 製造業者が点検を行ったところ、通常より大きな音がしているとのことであった。ヒートポンプを新品に取替え、設置場所の変更を行ったところ、低周波音は対応関係がみられぬほどにまで低減し、問題は解決した。

→この事例では、苦情を受けて市役所が即時に対応したことにより解決に至った。

[出典] 桑原：松戸市における家庭用ヒートポンプ給湯機の騒音・低周波音・振動測定事例について、  
総務省 公害等調整委員会。 機関誌「ちょうせい」第67号, 平成23年11月

# 騒音苦情事例の紹介 (2)

## ■当初想定していた騒音と原因が異なった事例

- 工場から200mほど離れた家屋の住人から、低周波音の苦情が寄せられた。唸るような音が気になるが、一日中ではないとのこと。
- 工場は連続的に稼動していて、苦情者の苦情を訴える時間帯と合致しない。
- 調査員は苦情者宅内で低周波音を感じられず、低周波音の測定結果からも苦情が発生するような音圧レベルは観測されなかった。
- 苦情者にどんな音が気になるのか再度詳細に尋ねたところ、微かに聞こえる「プーン」という音とのこと。
- 苦情者が気になっていたのは工場の小型焼却炉煙突から発生する500Hzに卓越成分を持つ騒音であることが判明した。

→ 苦情者の申立てる音を現場で聞き取れるか、感じられるかが重要。